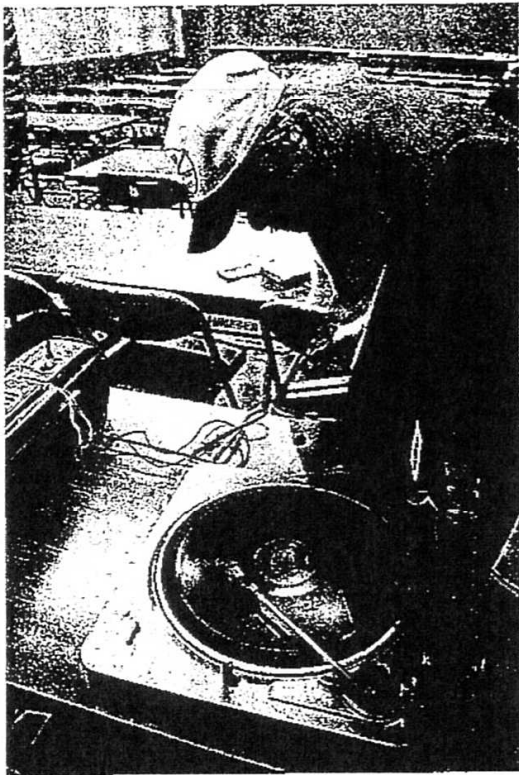


館山小唄復活へ

西条八十作詞 地元では忘れられ

「ムタツタ館山 またおいで」——館山市の観光名所や名物を盛り込み、1952年にレコード化された「館山小唄」。今では地元でもその存在すらほとんど忘れ去られ、「幻のご当地民謡」となっていたが、半世紀余の時の壁を乗り越え、地元の民謡愛好家と立教大学の協力で再現されることになった。【中島章隆】

「館山小唄」は西条八十 市民にも愛されてきたとい作詞、上原げんと作曲で、うが、今では夏祭りや流さ52年にキングレコードから れることもなく、旋律を覚発売された。かつては盆踊 えている人がほとんどいなりなどで振り付けとともに くなった。



館山市博物館で見つかった唯一のレコードの再生に聴き入る「花友会」の佐野会長。同市博物館で

立教大広告研が60年間歌い継ぐ

その幻の民謡を、歌い継いできた学生がいた。53年夏以降、同市の北条海岸で海の家「キャンプストア」を開設する立教大広告研究会のメンバーだ。「富士も遠見の安房の海」などと、海の家を打ち上げなど飲み会のため愛唱し、先輩から後輩へと受け継がれてきた。

キャンプストアが今年、60周年を迎え、同研究会はOBが中心になり「60周年実行委員会」（委員長・茂木康三郎利根コカ・コーラポトリング会長）を組織。各種記念事業を企画する中で、愛唱歌が元歌と違っていないか確認することにした。

昨春秋、地元の民謡愛好会「花友会」（佐野信一代表）が相談を受け、半年かけて関係方面に問いあわせ

た結果、ジャケットや歌詞カードは失われていたが、同市立博物館の倉庫にレコード1枚が保管されていることが分かった。

今月9日、佐野代表がレコードの再生を試みたが、保存状態が良くなかったため雑音交じり。回転数の違いからか、低音で間延びした印象だったが、「昔、宴会で歌った」という市内の芸者さんも現れ、花友会が秋までに三味線、尺八で「正調・館山小唄」の譜面を作ることになった。

「レコード発見」の連絡を受けた立教大の実行委員会は12日、茂木会長と杉本誠三副委員長が金丸謙一市長を表敬訪問。市側の協力に感謝し、11月に行う60周年式典で復元した「館山小唄」を披露する計画を伝えた。

金丸市長は「私も館山小唄は知らなかった。学生たちが歌い継いでくれていたとは驚きで、感謝したい」と話している。